概説

医療経営士の原点から考える未来

収益改善や医療提供体制の強化など 20人の医療経営士が知見と実践を披露

一般社団法人日本医療経営実践協会（東京都、原勝則代表理事）は11月22日、23日の二日間、「第14回全国医療経営士実践研究大会 神奈川大会」を川崎市のステーションコンファレンス川崎で開催した。副題は「医療経営士の原点から考える未来　強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント」。新型コロナ禍後、初となる二日間の会場開催で、会場には２００人を超す参加者が集まるなか、全国の医療経営士20人が病院の経営改革や職域の確立、人材育成などを中心に演題発表を行った。

経営基盤の再構築と未来に向けた経営戦略を明確にすべき

冒頭であいさつした原勝則日本医療経営実践協会代表理事は、昨今の厳しい病院経営の状況に触れ、「厳しい状況にある今だからこそ、医療経営士はその原点に回帰し、自身を見つめ直したうえで経営基盤の再構築と未来に向けた自院の経営戦略を明確にすることが求められている」と述べた。

続いて、大会運営委員長を務める三角隆彦社会福祉法人恩賜財団済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院院長が登壇し、「医療経営士の皆さま方の力に大変期待しています。今こそ正しく力を発揮し、病院を良くしていっていただきたい」とあいさつした。

経営戦略上、人材育成が最も大事

来賓を代表し、福田紀彦川崎市長（代読）が、「本大会は、これからの医療の在り方を考えるうえで極めて意義深い」と祝辞を述べた。

特別講演は、大石佳能子株式会社メディヴァ代表取締役が「地域を支え、病院を再生するコミュニティ&コミュニティホスピタル―総合診療医と医療経営士の新たな役割」の演題で、総合診療を軸として、超急性期以外の全ての医療とケアをワンストップで提供するコミュニティホスピタルを紹介。地域中小病院が目指す一つの方向性を示した。

三角隆彦大会運営委員長

原勝則代表理事

吉長成恭審査委員長

基調講演では、三角大会運営委員長が「強固な経営基盤を確立させる戦略的マネジメント」をテーマに講演。三角大会運営委員長は、「施設・病院の中で人を育てていくことが経営戦略上最も大事であり、今すべきことだ」と述べ、山本五十六の名言を常に心がけて病院運営をしているとまとめた。

全国に医療経営士による自主研究会を立ち上げよう